



Vol.8

NPO 法人 石狩国際交流協会



22人のヤングアンバサダー、キャンベルリバーへ!



「絶対にまたカナダへ行って、そしてホストファミリーの皆さんに会いたいです。」

「これからもカナダと石狩との交流を大切にしていきたいと心から願っています。」

「今度、またカナダへ行きたい!」

「キャンベルリバーやバンクーバーで作った思い出は、大人になっても忘れない。」

生まれて初めて子どもたちが体験した「他国でのホームステイ」。楽しいことばかりではなく、言葉が通じなくて、コミュニケーションがとれずに大変な思いをした子どももいたことでしょう。一人ひとりが感じ、触れ合った異文化交流はきっと子どもたちの心に一生残るに違いありません。

3月25日から4月3日まで、小学5年生から中学2年生の子どもたち22人と引率者6人は2006年ヤングアンバサダーとして記念すべき第10回目のキャンベルリバー訪問を果しました。8泊10日という長いようで短い旅の中で、参加した子どもたちは何を感じ、学び、楽しんできたのでしょうか。

『この春休みはテストの点数と同じくらい大切な経験をすることができた。今は、また行きたいと思っている。』



はーとふる 2006年8月11日発行 Vol.8 発行所 NPO 法人石狩国際交流協会 編集・発行広報部

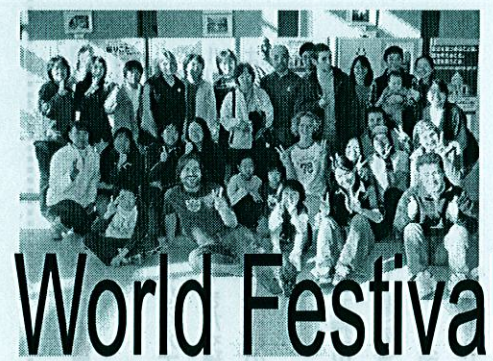
【予定】参加者募集中!!
英語は楽しい。み～んな地球人。
イングリッシュ・ディ・キャンプ
開催日: 2006.9.2~9.3 (1泊2日)
開催場所: 石狩自然の家 (八幡町高岡)



この事業は、子どもたちに『英語7/11』をなくしてもらいたいという会員、石狩 AET の双方向からの思いからスタートしました。参加する子どもたちは、2日間キャンプ(英語)と一緒に「英語」だけをコミュニケーションの手段とする生活体験に挑戦します。

【予定】当日のスタッフさん募集中!!
地球はひとつ。その中にたくさんの人々。もっと知りたい! もっと仲良く!
World Festival ワールドフェスティバル
開催日: 2006.10.14 午後1時~3時30分
開催場所: 花川北コミュニティセンター
イベント内容: みんなでデカちぎり絵を作ろう!、石狩姉妹都市パネル展示、サンドイッチワゴン(海の向こうのおやつをつまみくいできます)ほか

今年もワールドフェスティバルを開催します! 国際交流の場を提供すること、ヤングアンバサダーは誰でも行くことができること、石狩の姉妹都市は3つあることを広く市民の方々に知ってもらうことを目的としています。



World Festival

【予定】ホストファミリー募集中!!
来春は姉妹都市ヤングアンバサダーから親善大使たちがやってきます

来年の3月(石狩市内小中学校の春休み期間内)にカナダから児童生徒24~30人が石狩市を訪れます。市内でのホームステイ体験、日本文化体験、施設見学などをしながら地域での国際交流を促進します。5日~7日間滞在を終えたときには、たくさんの思い出が互いの胸に残ります! ヤングアンバサダー・セクションでは、ホストファミリーとお手伝いいただける方を募集しています。

問合せ・お申込み先
NPO 法人石狩国際交流協会事務局
石狩市花畑2条1丁目9-1 北ガスプラザ2階
Eメールアドレス: iia@dream.con.ne.jp
TEL: 0133-64-5931

【報告】
あつという間の10日間
ヤングアンバサダー帰国報告会&写真展
訪問期間: 2006. 3. 25-4.3 (8泊10日)
訪問地: カナダ(バンクーバー、バンガロー、ビクトリア)



2006年5月13日、第10回石狩ヤングアンバサダー(親善大使)帰国報告会&写真展を開催しました。参加児童生徒22人、引率者6人が旅・家族・英語など、さまざまな視点から姉妹都市バンクーバーでの体験や経験を素直に楽しく語ってくれました。カナダ滞在中のビデオ上映もあり、来場したご家族や一般市民の方たちの間からも笑い声が飛び出す場面もありました。

【報告】
年度に一度の大切な『会議』
平成18年度通常総会
会員総数: 392 (正会員・法人 80/個人 312)
出席総数: 264 (本人出席 48/委任状 214/代理人 2)

2006年5月26日、平成18年度通常総会が開催されました。平成17年度事業・会計報告がされ、今年度の事業計画案・予算案が議決されました。出席した会員からは、自己財源の確保や経費の節約に対する積極的な意見も発言され、今後の対応と対策に盛り込まれることになりました。

「ハート・コミュニケーション」
英語がうまく話せなくて...と困るホストファミリーに「グループリーダー」の言った、この言葉が忘れられません。

【報告】
この夏、アメリカ(U.S.A)から12人の高校生たちが石狩へやって来た!
滞在期間: 2006. 7. 10-7.20 (10泊11日)
滞在場所: 石狩市内



米国バーモント州を拠点に活動するNGO団体『ワールド・トレーニング』から13人のアメリカ人たちが派遣されて来ました。翔陽高校での学校祭、厚田中学校訪問など市内13家庭でホームステイしながら国際生活体験プログラムに参加しました。石狩を立つ前日の『THANK YOUパーティー』は食事会場の飾りつけも全て彼らの手づくり! 「ありがとう」がたくさん詰まったパーティーでした。ホストファミリーへの手づくりカードは、家族の宝物になっているに違いありません。



【報告】
暑い夏、熱い二日間
市制10周年記念『石狩市民まつり』に出店
売上総額: 492,650円



当協会の事業部が7月15~16日の2日間、『石狩市民まつり』に露店を出しました。前売りで、国際交流協会の露店だけで使える金券を発券したこともあり、多くの会員の方が来店し、売上げも好調で、いつも増して嬉しい結果となりました。2日間お手伝いくださった会員の皆さん、ありがとうございました!



「単純な外国へのがれで…」
「隣の家に留学生がいて興味を…」
ホームステイ部会は、2人の留学生を2か月毎に受け入れることから、メンバーは12家庭が基本で、留学生の親のほか、「隣の家に留学生がいて興味をもった」という人や、「単純な外国へのがれ」で始め、何年もの間受け入れを行ってきたベテランの人もいます。

会合は月1回行われ、前年の留学生の親が幹事としてまとめ役になり、留学生の日本語スピーチやホストファミリーからの近況報告を行い、相談やアドバイスの場となっています。

カナダでは寝場所と食事の用意のみでそれ以外に世話はできないという家庭でもホームステイを受け入れているといいます。カナダでのホームステイ経験者は、「日本で部屋がないという人もいますが、カナダで泊めてもらったのは、荷物を寄せただけの部屋で、これでいいんだなあ



ツト、バーベキュー(さげまつり)でつかみ取りした鮭を焼きます。料理教室など、盛りだくさんの親睦行事を行っています。

同じまちに住んでいるながら接点がない人たちが、「国際交流」という一つの共通項でつながり、一緒に悩んだり考えたり、そして楽しむことが、皆さんのかけがえのない財産となっているようです。

最近、ホームステイをしてみようという家庭が減ってきているとのこと。高齢化や、生活のゆとりがなくなってきたりなど、様々な要因が考えられるが、「まずは自然体で、気軽にチャレンジしてほしい、そのためにみんなサポートします」と、これからの新たな交流へのあつい思いを語ってくれました。

「食へさせる、寝せる、泣かせない」そして「家のルールを守る」

かつて多くの留学生を受け入れていた方は、「食べさせる、寝せる、泣かせない」と、「家のルールを守る」という4つを基本に留学生と接し、そのかわり「留学生に通じない会話はしないようにしていた」とベテランらしくポイントを話してくれました。また、留学生は親元を離れて暮らして



と気持ちに楽になりました」といい、朝食やランチも冷蔵庫から自分で好きなものをとろろという家庭も多いとのこと。

このことはもちろん良し悪しではないが、日本の「おもてなしの心」から、尽くしてしまいがち。

「最初はいろいろしてあげようと思ってしまっただけで、ほどほどが大切だとわかってきた」と始めた頃のことを振り返っていました。

「食へさせる、寝せる、泣かせない」そして「家のルールを守る」

かつて多くの留学生を受け入れていた方は、「食べさせる、寝せる、泣かせない」と、「家のルールを守る」という4つを基本に留学生と接し、そのかわり「留学生に通じない会話はしないようにしていた」とベテランらしくポイントを話してくれました。また、留学生は親元を離れて暮らして

いる上、特に多感な時期でもあり、開放感もあるが、「ただ、がんじがらめにするのではなく、どこにいるのかは把握するというスタンスで自主性を大事にすることも必要」とのこと。慣れにくると多少の「駆け引きも身につくよう」です。

「ずっと続く日本の『お母さん』とカナダの『子どもたち』の心の交流」

「再会したときハグは格別！」

「わが家の活性化につながります」

もちろん大変なこともあるけれど、一緒に暮らして楽しくないわけがない。「日々の生活の中に、小さな楽しみや発見があつて、またやろうと思う。再会とともにあふれ出す思い出とハグは格別です」という声にみんなうなずいていました。

「何より家族が増える」と、マンネリがみの家庭が変わります。特にお母さんは

“はーとふる”な思いを分かちあう…

特集 ホームステイ

キャンベルリバーとの姉妹都市交流が始まって23年。この間に行き来した留学生は79人、ヤングアンバサダーは537人に上ります。両市の強い絆を縁の下から支える協会の「ホームステイ部会」にお邪魔し、お話を伺いました。

活性化しますよ」と、ホームステイを勧めます。

「気軽に、自然体で、国際交流してませんか？」

ホームステイ部会では、月1度の例会のほか、会員のコミュニケーション(お楽しみ?)を増やすため、定期的なお茶会をしたり、「ホームステイは楽しいこと」が大切」をモットーとする幹事のアイデアで、さくらんぼ狩り、フリーマーケット

「お帰りのさい、マナミ&サワ」

約10ヶ月間のカナダ留学を終え、7月に山田真奈美さん(石狩翔陽高2年)と福田沙和さん(石狩南高2年)の2人が石狩へ帰ってきました。初めの3ヶ月は英語が理解できず、友だちも作るのが大変で泣いていたとのこと。石狩の家族はもちろん、現地のホストファミリーたちに支えられ苦しいことも乗り越えて生活してきた2人。きつと言葉や文化を超えた友情、愛情が芽生えたことについて。

「また会いましょう、シブーン&ジュリア」

8月2日にカナダへ帰国したジュリア・ハリさん(17歳)とシブーン・ヘアードさん(17歳)。去年、初めて石狩へ来たときはなかなか生徒たちと打ち解けられず、悩んでいた2人。そんな2人も週1回の日本語レッスンへ欠かさず通い、日本語で冗談を言えるようになった。石狩での思い出、家族、友だちに会いにきつとまた戻ってきてくれることでした。



「石狩・キャンベルリバー留学生、いざ出発！」

姉妹都市提携23年目となるカナダ・キャンベルリバー。当初から続いていた交換留学生事業は、79人ももの留学生たちが両市の架け橋となるべく海を渡りました。

今年度、CRへ行くのは、石狩南高へ通う2年生の宮津清也くん。(17歳)残念ながら翔陽高校からの留学生がいなく、1人で行くことになりました。「英語は苦手な科目です」と言

留学 留学生



う清也くんですが、持ち前の明るさと笑顔でたくさんの方たちを作ってきてくれることでした。



CRから来石するのは、空手や柔術などを学びたいというマシューくん(下写真左、17歳)と日本語をたくさん学んで将来に役立てたいというニール

張「高校の生活はとも楽しかったです。さくらんぼ狩り、温泉あり、海へも行きました。まだ中国へ帰りたいです。」



「高校では学校祭が一番楽しかったです。日本の高校は、中国の学校と比べて行事が多いです。市民まつりでは、おでんやうどんを販売しました。」